

東急病院だより

ふゆ号
2026

大岡山の駅の上・笑顔あふれる東急病院・お役に立つ情報を発信する季刊誌

年頭のごあいさつ

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は、当院の医療活動に対しまして、地域の皆さんや関係機関の皆さんをはじめ多くの方々より温かいご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

2025年は、大阪・関西万博開催や、日本人研究者によるノーベル賞受賞など、国内外で希望に満ちたニュースがありました。一方、医療を取り巻く環境においては団塊世代が75歳以上の後期高齢者となる「2025年問題」が現実味を帯び、高齢化の進行に伴う医療需要の増加、医療人材の不足、病院経営の厳しさなど医療・介護・福祉の現場に大きな変化と課題が押し寄せた一年でした。

当院におきましては、地域包括ケアの推進、在宅医療の充実、医療DXの導入などに取り組み、昨年は地域の医療機関との患者さま受け入れに関する連携強化や訪問診療の態勢強化、医療費後払いサービスによる患者さまの利便性向上、デジタル化による業務の効率化などを行いました。また地域の皆さまの「健康と安心」を守るための取り組みとして市民公開講座を開催し、予防医療や生活習慣病への理解を深める機会を提供し、多くの皆さんにご参加いただきました。

2026年は、医療における課題に対してさらに前向きに取り組む一年と位置付けております。また地域に根ざした医療機関として、皆さまの健康と安心を支える存在であり続けるべく、職員一同努力してまいります。どうぞ本年も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

病院長 德留 悟朗

TOPIC



～緊急医療救護所訓練を実施しました～

緊急医療救護所は、大規模災害時に区が設置し、病院機能を守るために、軽症者を医師会の医師や看護師、薬剤師等が院外（病院敷地内）で診療する体制です。

11月8日、当院は大田区および田園調布医師会など関係機関と連携し、災害における緊急医療救護所の設置・運営訓練を実施しました。

中等症・重症者については、当院職員が院内での搬送・

診察・検査・入院調整などを行い、職種を問わず協力体制をとります。

当日は関係者を含めて70名規模の体制で実施され、各部門の医療者に加えて事務職も参加し、組織横断的に地域と一体となった救護所運営を経験しました。

この訓練を通じて、災害時に当院が果たすべき役割を改めて確認することができました。



膝関節とは

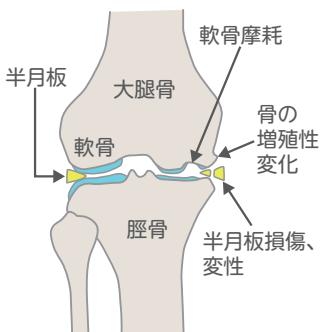
公開講座報告

(2025年9月3日玉川せせらぎホールにて開催)

体の中で最大の関節である膝関節は、日常生活のスムーズな動作に欠かせない運動器の一つです。トレーニングを続けることで、スポーツなど、より複雑な運動が可能になります。主な役割は衝撃の吸収であり、歩行時に約3倍、階段昇降で約6倍の体重を支えています。“痛み”を感じずに関節を動かせるのは、神経や血管がほぼ存在しない軟骨と半月板によって膝関節機能が維持されているからです。一方、その特性のために自己修復能力が極めて乏しく、損傷を受けた場合の自然治癒は期待しがたい組織といえます。



変形性膝関節症



運動器の国民病「変形性膝関節症」

年齢を積み重ねるごとに日々の負荷は蓄積され、軟骨や半月板の変性・摩耗とともに骨の増殖性変化を伴う変形性膝関節症が発症します。国内の患者数は約2,500万人と推定されており、女性は男性に比べて約1.5～2倍多いことが特徴です。65歳以上では、その半数以上が罹患するため、運動器の国民病といわれています。

症状

主な症状は関節の“痛み”であり、画像診断で病期分類を行います。次に示す病状の進行により移動能力が落ちると、生活の質が著しく低下します。

初期 ▶ こわばり、立ち上がり、歩き始めの痛み

進行期 ▶ 曲げ伸ばしの制限、階段昇降の痛み、水がたまる

末期 ▶ 安静時や夜間に痛みがでる、歩くのがつらい

治療

“痛み”を緩和して日常生活の動作を改善することが、治療目標になります。初期から進行期では鎮痛剤などの薬物療法や装具療法からなる保存加療を、保存加療抵抗性や末期の関節症には手術加療を施します。最近ではこれらの治療法に加えて、多血小板血漿 (PRP) を用いた再生医療が選択できるようになりました。

予防が大切

どの治療法を選択しても、最も意識しなければならないことは、膝を支持して動かす関節周りの筋力維持です。強さと柔軟性のない筋肉では、いずれ関節の負担は増大し、症状は再燃してしまいます。

東急病院ではYouTubeに公式チャンネルを開設して、筋力維持のための動画を公開しております。ぜひご活用ください。



整形外科医長 池田 亮

[専門領域]

膝関節外科

[資格]

- ・日本整形外科学会認定 整形外科専門医・指導医
- ・日本整形外科学会認定 運動器リハビリテーション医
- ・日本整形外科学会認定 スポーツ医
- ・日本人工関節学会認定 人工関節専門医
- ・日本整形外科学会認定 ロコモアドバイスドクター

東急病院 YouTubeチャンネルは こちらから ▶▶▶



ひざ関節の筋力アップで日常生活をスムーズに

SMILE スマイルニュース NEWS

■ 新任医師紹介 (2025年10月1日着任)



ほりぐち ひろし
堀口 浩史

【診療科】

眼科

【役職】

診療医長

【専門領域】

白内障・網膜硝子体・緑内障

【経歴】

2002年 東京慈恵会医科大学卒業
2007年 スタンフォード大学心理学科
2016年 東京慈恵会医科大学眼科学講座講師
2024年 東京慈恵会医科大学眼科学講座准教授

【資格】

日本眼科学会専門医

【診療方針】

眼から入る情報は脳の多くの場所で処理されており、感覚の中でも重要な位置を占めていることは言うまでもないと思います。近年はスマートフォンなど、眼を酷使する場面がますます増えており、不安を抱える方も少なくないと思います。白内障のように、治療するまでの期間が空いてしまっても大きな問題がない疾患もあれば、緑内障や糖尿病網膜症のように、取り返しがつかない状況になるまで自覚症状が出ない病気もあります。早期発見・治療が必要な病気かどうかは自分で判断するのは困難ですので、一度外来を受診してください。状況に応じた適切な治療を提供できれば幸いです。

【趣味・特技】

食べること、歩くこと

■ 新任・退任医師のお知らせ

【退任】 2025年9月30日付

いとう りょうすけ
眼科 伊東 良祐

【退任】 2025年12月31日付

いえとみ さき
整形外科 家富 早希
ふくしま ともき
整形外科 福島 友紀

【新任】 2025年10月1日付

ほりぐち ひろし
眼科 堀口 浩史
【新任】 2026年1月1日付
さかき たろう
整形外科 楠 太郎
てらもと まさし
整形外科 寺本 昌史

■ 透析送迎バスを増車しました



透析治療を目的として通院される患者さまの通院負担を軽減するため、透析送迎バスを増車し送迎体制を強化しました。

■ 腎臓病教室開催のお知らせ

当院では毎年世界腎臓病デー(毎年3月の第2木曜日)にあわせて腎臓病教室を開催しています。ご興味ある方はぜひご参加ください。

テーマ

腎臓病 何をしたら良い? ~ビタミンDを中心にも~

開催日時: 3月14日(土)13:30~15:30

開場 13:15~ ※予約制

場所: 東急病院 5階会議室

詳細は、院内のポスター、チラシ、東急病院ホームページにてご案内しております。

栄養管理 ニュース

知っていますか? 「オーラルフレイル」 “オーラル”=「口の」、 “フレイル”=「虚弱」

1. 使わなければ、口の力も衰えます。

口の力が衰えたり、口の中の環境が悪化することで食事が十分にとれず、**低栄養・嚥下障害**を引き起こし、要介護状態となるリスクが高まってしまう恐れがあります。一度落ちた力を取り戻すのはとても大変です。

オーラルフレイルの兆候



2. 口と喉の力をつけましょう。

口の運動・発声練習(音読など)で基礎の力をつけましょう。

3. 口のケアをしっかりしましょう。

① 口腔内環境
虫歯や歯周病、口の乾燥を放置すると、口の中の悪玉菌が増加し、全身の病気にもつながります。毎日の歯磨きで予防に努め、異常があれば受診しましょう。

② 入れ歯の調整
合わない入れ歯ではしっかり噛んで食べることができません。必要なときはきちんと受診して調整し、よく噛んでバランスよく食べましょう。

※既に飲み込みづらい・ムセるなどの症状がある場合は、かかりつけの医師に相談してください。

次回もお楽しみに! 東急病院 栄養管理委員会



11月14日は世界糖尿病デー

国際連合は、インスリンを発見したカナダのバンティング博士の誕生日である11月14日を「世界糖尿病デー」に認定し、世界各地で糖尿病の予防、治療、療養について啓発活動を推進しています。当院でも、世界糖尿病デーにあわせて11月4日～11月14日の間、駅中央改札の外側を世界糖尿病デーのイメージカラーである『ブルー』でライトアップしました。

測定コーナーの設置

糖尿病デー当日は、血糖測定・HbA1c測定・動脈硬化検査・握力測定などさまざまなコーナーを設け、来場者の皆さまが興味のあるコーナーに立ち寄っていただきました。



糖尿病教室の開催

医師による「糖尿病の基本」、管理栄養士による「食事について知ろう～『健康食』をはじめましょう～」をテーマにした糖尿病教室は多くの方が参加され、皆さん熱心にお話を聞いてくださいました。



窓口一覧

患者さまからのご予約・お問い合わせ

外来
ご予約

03-3718-3331 (代表)

※自動音声案内にて1番を入力してください。 月～金 13:00～17:00

～紹介状をお持ちの方は～

03-3717-7867

医療連携部門

月～金 8:45～17:30

訪問診療

03-3718-3331 (代表)

※自動音声案内にて3番を入力してください。 月～金 9:00～17:00

人間ドック
ご予約

045-274-1009

月～金 12:30～16:00

健康診断
ご予約

045-902-8957

月～金 10:00～16:00

医療福祉
相談

03-3718-3336

月～金 9:00～17:00

医療・介護関係の方からのご予約・お問い合わせ

外来 救急 同日上部 または 同日下部内視鏡検査

栄養指導

03-3717-7867

FAX:03-3717-4138

医療連携部門事務担当
月～金 8:45～17:30

CT MRI 骨密度検査

03-3718-3573

FAX:03-6673-2594

放射線科
月～金 8:30～17:00

超音波など

03-3718-3504

生理検査室
月～金 8:30～17:00

入院・転院のご相談

入院中の患者さまに関するお問い合わせ

03-3718-3336

医療連携部門MSW・看護師
月～金 9:00～17:00

